

製品安全データシート

作成 2014年 8月 26日
改訂

1. 化学物質等および会社情報

製品名 : コンパウンド SEC-NL
 会社名 : 富士技研工業株式会社
 住 所 : 埼玉県戸田市本町4-2-16
 担当部門 : 品質管理部
 電話番号 : 048-434-6401 F A X 番号 048-434-6404
 緊急連絡先 : 富士技研工業株式会社 本社 電話 048-434-6401

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外	自然発火性液体	区分外
可燃性／引火性ガス	分類対象外	自然発火性固体	分類対象外
エアゾール	分類対象外	自己発熱性化学品	区分外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外	水反応可燃性化学品	区分外
高压ガス	分類対象外	酸化性液体	分類できない
引火性液体	区分外	酸化性固体	分類対象外
可燃性固体	分類対象外	有機過酸化物	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外	金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分4	生殖細胞変異原性	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない	発がん性	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外	生殖毒性	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	区分2（血液、心血管系）
急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外		
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない		
皮膚腐食性／刺激性	区分2	特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	区分2（血液）
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	区分2A		
呼吸器感作性	分類できない		
皮膚感作性	区分1	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	区分2	水生環境長期間有害性	区分2
-----------	-----	------------	-----

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 :

- ・ 飲み込むと有害のおそれ
- ・ 皮膚刺激
- ・ 強い眼刺激
- ・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・ 血液、心血管系、肝臓の障害のおそれ
- ・ 長期にわたる、または反復ばく露による血液の障害のおそれ
- ・ 水生生物に毒性
- ・ 長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き :

安全対策

- ・ 取扱い後、手をよく洗うこと。この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 保護衣、保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・ ミスト、蒸気の吸入を避けること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。

応急措置

- ・ 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・ 皮膚に付いた場合：多量の水で洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
- ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
- ・ 漏出物を回収すること。

保管

- ・ 施錠して保管すること。

廃 棄

- ・ 内容物／容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名	トリエタノールアミン	亜硝酸ナトリウム	脂肪酸アミン塩	水
成分および含有量 (%)	15～25	20～30	1.0～10	---
化学特性 (化学式又は構造式)	非公開	非公開	非公開	非公開
官報公示整理番号	非公開	非公開	非公開	非公開
CAS No.	非公開	非公開	非公開	非公開
国連分類および国連番号	非該当	非公開	非公開	非該当

4. 応急措置

眼に入った場合 : 直ちに流水で少なくとも 15 分間以上洗眼し、医師（眼科医）の診断を受けること。

皮膚に付着した場合 : 多量の水で石鹼を用いて、皮膚を速やかに洗浄すること。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。吐かせないこと。医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合 : 速やかに新鮮な空気のある場所に移動させ安静にし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断、手当てを受けること。

最も重要な兆候及び症状

: 眼を強く刺激し、炎症を起こす。皮膚に付着すると炎症を起こすことがある。

5. 火災時の措置

消火剤 : 地域の状況や周囲の環境に適切な消火剤を使用すること。

特有の危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒュームを発生する恐れがあるため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を安全な場所に移動する。

移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。

消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

環境に影響を出さないよう、できるだけ流出を防止する。

消火を行うものの保護 : 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用し、風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
作業時には必ず保護具（保護衣、手袋、眼鏡、マスク等）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。適切な保護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
多量の場合、人を安全な場所に退避させ、風上から作業する。必要に応じた換気を確保する。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。
- 封じ込めおよび浄化方法・機材
: 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取り扱う時用いるすべての設備は接地する。
- 二次災害の防止策 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 眼・皮膚・衣類に触れないように、適切な保護具（マスク・保護眼鏡・保護長靴・保護手袋・保護前掛け等）を着用する。
- 注意事項 : 使用前に使用説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
火気注意。
空気中の濃度をばく露限界以下に保つために換気を行うこと。
接触、吸入または飲み込まないこと。
取扱いはていねいに行い、取扱い後は手洗い、洗顔等を充分に行うこと。
屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

保管

- 技術的対策 : 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、または浸透しない構造とすること。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、または取り扱うために必要な採光、照明および換気の設定を設ける。

混触危険物質	: 強酸化剤
適切な保管条件	: 酸化剤から離して保管する。 施錠して保管する。
容器包装材料	: 包装、容器の規制は無いが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
設備対策	: 取扱い場所の近くには、安全シャワー、洗眼設備を設置する。規定はないが、全体換気装置または局所排気装置の設置が望ましい。
保護具	
呼吸器用の保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用する。
手の保護具	: 必要に応じて適切な保護手袋を着用する。
眼の保護具	: 適切な眼の保護具を着用する。 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚および身体の保護具	: 必要に応じて適切な保護衣、保護長靴、保護面等を着用する。
適切な衛生対策	: 取扱い後は、手、顔などをよく洗い、うがいをする。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 橙黄色透明液体
臭い	: アミン臭
pH	: 10.5
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点および沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度（空気=1）	: データなし
密度	: 1.150g/cm ³ （15℃）
溶解度	: 水と任意に混和する。
分解温度	: データなし
臭いのしきい（閾）値	: データなし
蒸発速度（酢酸ブチル=1）	: データなし

10. 安定性および反応性

安定性	: 通常の条件では安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と反応する。
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: 強酸化剤

1 1. 有害性情報

急性毒性

: 経口 亜硝酸ナトリウムのラットの LD50 値 85mg/kg (IUCLID,2000) をもとに推定値を算出したところ区分 4 に相当した。

経皮 データなし

吸入 データなし

皮膚腐食性・刺激性

: ACGIH (7th,2001)、SIDS (2005)、IARC 77 (2000) および NTP TR 518 (2004) のヒトで高濃度ばく露または反復ばく露により皮膚刺激が認められたとの記述から、区分 2 とした。(トリエタールアミン)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

: ACGIH (7th,2001)、PATTY (4th,1994) および NTP TR 518 (2004) のウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性が認められ、14 日後に完全に回復したとの記述から、区分 2A とした。(トリエタールアミン)

呼吸器感作性

: データなし

皮膚感作性

: ACGIH (7th,2001)、IARC 77 (2000) および NTP TR 518 (2004) のヒトでアレルギー性接触皮膚炎の報告があるとの記述から、区分 1 とした。(トリエタールアミン)

生殖細胞変異原性

: データなし

発がん性

: データなし

生殖毒性

: データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

: Priority2 文書の ICSC (J) (2000)、HSFS (1999)、HSDB (2003)、RTECS (2004) にヒトの心血管系 (血圧低下等)、血液 (メトヘモグロビン血症等) に影響があるとの記載があり、区分 2 (心血管系、血液) とした。(亜硝酸ナトリウム)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

: Priority2 文書の RTECS (2004) にラットの反復投与試験においてメトヘモグロビン血症の報告が 2 件あり、毒性がみられた用量とガイダンス値との比較により、区分 2 (血液) とした。(亜硝酸ナトリウム)

吸引性呼吸器有害性

: データなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性

: 魚類 (ニジマス) の 96 時間 LC50=0.36mg/L (ECETOC TR91、2003) から、推定値を算出したところ区分 2 に相当した。(亜硝酸ナトリウム)

水生環境長期間有害性

: 急性毒性が区分 2、水中での挙動および生体蓄積性が不明であるため、区分 2 とした。(亜硝酸ナトリウム)

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄する場合は多量の水で充分希釈してから関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。

都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装 : 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 : 非該当

国連番号 : 非該当

国内規制

陸上規制情報 : 労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空規制情報 : 航空法に定められている運送方法に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

化学物質排出把握管理促進法 : 非該当

海洋汚染防止法 : 油分排出規制 (原則禁止)

下水道法 : 鉱油類排出規制 (5mg/L 許容濃度)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

: 産業廃棄物規制（拡散、流出の禁止）

水質汚濁防止法

: 油分排出規制（ノルマルヘキサン抽出分として検出される）

16. その他の情報

本製品安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂される事があります。また、SDS中の注意事項は通常の取扱を対象にした物です。製品使用者が特殊な取扱をされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。また、当社は、SDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証する物ではありません。

※危険、有害性の評価は必ずしも十分でありませので、取り扱いには十分注意をお願い致します。

参考文献

JIS Z 7252 2009 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」 日本規格協会

化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂5版 国連出版物

安全衛生情報センター

<http://www.jaish.gr.jp/>

製品評価技術基盤機構

<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>

原料 SDS
